

九州国立博物館「楽しかあ！！九博プラン」

九州国立博物館（九博）は、アジアの国々との交流によって育まれてきた日本の文化と美術を、学校より面白く、教科書よりわかりやすく伝えることをスローガンとして、2005年に福岡県太宰府市に開館した。

太宰府は古来、わが国とアジアとの交流の拠点として栄え、歴史的・地理的背景と、観光客誘致に向けた各所の努力により、近年、この地を訪れる観光客数は1,000万人規模まで急速に拡大している。

また、新たに「令和」ゆかりの地としても注目を集め、その太宰府に立地する国立博物館として、九博は日本の歴史や文化の魅力を内外に一層発信することが求められている。

さらに、アジア各国を中心とする外国人観光客の増加や、オリンピック・パラリンピック競技大会等国際行事の開催を控え、アジアの玄関口としての九州の役割は今後ますます重要になっていく。

九州唯一の国立博物館である九博は、来館者のニーズに応じた機能の刷新を行い、今後も地元に一層愛され続ける博物館を目指すとともに、アジア、そして世界へ開かれた未来志向の博物館への革新を目指して、以下のプランの実現に挑戦する。

1. 九博へようこそ

- (プラン①) 安らぎの空間の創出
- (プラン②) スムーズな来館・誘導のサポート

2. 九博を楽しむ

- (プラン③) 面白くてわかりやすい展示室作り
- (プラン④) みんなが楽しめるミュージアム
- (プラン⑤) 世界とつながる博物館へ

3. 九博といっしょに

- (プラン⑥) 九博を知ってもらうために
- (プラン⑦) 地域とともに歩む

4. 九博の未来へ

- (プラン⑧) 九博の基盤強化
- (プラン⑨) 未来の九博整備

1. 九博へようこそ

(プラン①) 安らぎの空間の創出

○九博の自然に囲まれたロケーションを来館者に体感いただくため、250本に及ぶしだれ桜の並木の整備や、今秋の醍醐寺の桜（秀吉花見のクローン桜）の植樹等、自然豊かな外構環境の演出を図る。



○池周辺の散策路について、階段や手すり、ベンチ等を整備し、散策・休憩ゾーンとして安全で快適な活用を図る。併せて、回遊性をもった散策ルート of 整備を進める。

○館内の休憩設備（椅子、休憩室等）や、屋外カフェスペースの増設等、来館者が気軽に休憩、飲食、イベント鑑賞を楽しめる空間を創出する。

○外構環境整備の進展に併せ、将来的に、施設・設備・樹木等の情報をAIアプリ等で読み取ることができるシステムを導入するなど、外構環境情報のデジタル化を検討する。

(プラン②) スムーズな来館・誘導のサポート

○館内の誘導・案内サイン、券売所の料金表示等について、国籍、年齢を問わず、来館者にとってわかりやすい表示となるよう、多言語対応も含め全面的に見直しを行う。

○エントランスホール内の総合案内所等の施設や展示物等のレイアウトについて、利用状況や導線など来館者の目線で総点検し、計画的に整備を進める。

○キャッシュレス対応の範囲の拡大、ネット予約システムの導入など、外国人も含めた来館者の利便性を向上させるとともに、スムーズな入館を支援するための環境整備を行う。

○外構の夜間照明や、エントランスまでのアクセスルートの整備方針を検討する。

2. 九博を楽しむ

(プラン③) 面白くてわかりやすい展示室作り

○かつての九州・大陸間の頻繁な交流と、古代の大宰府が果たしてきた役割の大きさについて、展示室を周遊するだけで体感できるようなキュレーションを行い、西の都・大宰府の理解と九博への親しみが芽生えるようなわかりやすい展示空間を創り出す。

○作品の背景にある歴史や地理的情報の理解を促進するため、写真や図を効果的に使用した解説パネルを日本語、外国語ともに増設し、「見てわかる」展示を構築する。

○スマートフォンアプリを用いて作品の音声解説や関連映像を提供するシステムを実用化するなど、ICTを活用した展示解説のデジタル化を推進する。

○作品に直に触れる楽しみを体験できる高精度のレプリカを活用したハンズオン展示や、展示に併せた体験型のワークショップを実施する。



○ARを活用し、展示に関連する歴史上の人物、文化財との記念撮影が可能となるアプリを作成するなど、最新の技術を活用した環境整備を検討する。

○未来の九博のスターとなるポテンシャルを秘めた作品を収集し、それらを活用した魅力的な特集展示を開催する。

○作品の魅力を最大限に引き出すために、照明、展示ケース等、展示環境の整備を、予算を確保しつつ計画的に推進する。

(プラン④) みんなが楽しめるミュージアム

○「面白くなければ博物館じゃない」をモットーに、ファミリー向けイベントとして、展示室内外で実施する「バックヤードツアー」や「夜の博物館たんけん隊」、ミュージアムトーク作品を模写できる「スケッチシナイト」、「親子で楽しむクイズ大会」などの企画をより一層充実させる。



スケッチシナイト

○季節に応じて、「新春書初め大会」や「桜祭り」、「あじっば夏祭り」、「九博ホテル鑑賞会」、「クリスマスコンサート」など、1年を通していつでも楽しめる多彩なイベントを企画・開催する。



○古都大宰府の往時を偲ばせる装束や、アジア各国の民族衣装を着用しての展示観覧、記念撮影スポットの設置など、九博ならではの資源を活用した思い出に残る企画を実施する。



○すでに開催している九州の神楽の実演や書展などに加えて、エントランスやミュージアムホールなど博物館の広大なスペースを活用したファッションショーや大規模なパーティー、茶室を活用した囲碁や将棋のタイトル戦など、これまでにない斬新で多彩なイベントを実施する。



○障がいをもった方を対象として、手話通訳付きのミュージアムトークを開催したり、解説の音声コードや点字ガイドブックを作成するなど、誰もが展示を楽しめる環境を整える。

○新たな九博オリジナルグッズを開発するとともに、企業等とのコラボレーション商品の開発を推進する。

(プラン⑤) 世界とつながる博物館へ

○作品の外国語（英・中・韓）解説について、ネイティブチェックを徹底的に行い、文化的背景の異なる外国人にも楽しく読めて、理解しやすいものとする。

○現在7か国語で作成している多言語リーフレットについて、ニーズを踏まえ、タイ語版、ベトナム語版などを新たに作成する。

○海外の 10 機関と締結している国際学術交流協定に基づき、共同調査研究事業等を引き続き推進するとともに、2022 年度開催予定の特別展「瀋陽故宮展」など、交流先と連携した取組を実施する。

3. 九博とっしよに

(プラン⑥) 九博を知ってもらうために

○公共交通機関の車内、ターミナル駅、空港、港湾、バス停など、基本となる交通広告を充実させるとともに、公共交通機関と連携したイベントを企画する。

○九博応援大使から、季刊情報誌、TV 広報番組等の広報媒体やイベント等において、九博や太宰府の魅力を発信してもらい、九博及び地域のイメージアップを図る。

○旬な展示・イベント情報や、総ガラス張りで周囲の自然が写り込むユニークな建物外観、桜並木などのフォトジェニックなポイントを、SNS やホームページ、メルマガなどを活用して発信する。

(プラン⑦) 地域とともに歩む

○太宰府天満宮をはじめとする地域の伝統行事とタイアップした展示やイベントを開催するなど、地域と一体となった取組を充実する。



夏の天神まつり



太宰府 古都の光

○九博、太宰府市など 6 機関が連携し、太宰府の様々な文化資源を活用して地域の魅力を発信する事業を実施し、地域文化、地域経済の活性化を図る。

○九州唯一の国立博物館として、飾り山笠の展示など、福岡県をはじめ九州各県の歴史や文化を紹介する展示やイベントを開催し、九州の魅力を精力的に発信する。

○太宰府地域一帯の観光案内サインについて、太宰府市や太宰府天満宮と連携して、デザイン統一、多言語化、ピクトグラムの併記、配置の見直しなどを推進し、観光客、特に外国人のニーズを満たすものへと刷新する。

○移動博物館車「きゅーはく号」を活用し、九州各地の学校、公共施設等を対象とした出前授業、ワークショップ、出張展示等のアウトリーチ活動を推進する。



○X線CTスキャナ等の最先端機器と、館内に設置された6つの修理工房を活用し、安全かつ確実に文化財の保存修復を実施する。また、九州山口地域の文化財修理の中核を担う施設として、文化財修理の意義及び技法の普及・啓発に努める。



○独立行政法人国立文化財機構に設置された文化財活用センターとも連携し、九州各県の小規模博物館等への館所蔵作品やレプリカの貸与・活用を推進する。事業の実施にあたっては、移動博物館車「きゅーはく号」の展示・ステージ・広報機能も活用する。

4. 九博の未来へ

(プラン⑧) 九博の基盤強化

- 上記のプランを実行するため、外国語、施設・設備、イベント企画等に関する専門的な知識・能力を有する人材を確保する。
- 上記のプランの実行に必要な原資を確保するため、入館料及び料金体系の見直しを検討する。

(プラン⑨) 未来の九博整備

- 「九州国立博物館フィールドミュージアム等将来構想」(平成30年3月策定)を基盤とし、展示機能のみならず、文化財の保存・修復や、教育普及・イベントなどにも活用できる、多様な機能を持たせた新たな施設の整備方針を検討する。

